

**主 題：自由人として生きる 5**  
**聖書箇所：ガラテヤ人への手紙 5章19－23節**

私たちはガラテヤ人への手紙5章を学んでいますが、これまでにこんなことを学びました。それは、新しく生まれ変わった私たちクリスチャンは、どうすれば日々経験する心の中の葛藤に勝利することができるのか？でした。確かに、私たちのうちには二つの性質があることをみな知っています。神のみことばに従って神の栄光を現したいという願いを与え続けてくれる新しい性質、また、これまでと同じように、罪を愛して神に逆らって生きようと誘惑する古い性質、この二つが私たちの中で葛藤しているのです。パウロは、では、どうすればこの古い性質に勝利することができるのか？その方法を教えてくださいました。思い出してください。私たちは罪が私たちの心を支配しようとするのを許さないこと、そして、私の心を神に支配していただくこと、そのように歩むことであると学んで来ました。

そして、今日、5：19から見ていきますが、19－21節と22－23節には、初めのほうは「肉がもたらす生き方、肉の特徴」が記されていて、後半は「新しい性質がもたらす生き方とその特徴」が記されています。なぜ、パウロはこのような書き方をしたのか？恐らくパウロは、すべてのクリスチャンたちに、肉に導かれて生きることがいかに愚かであり、いかに神の前に価値のない汚れたものであるかということを今一度明らかにすることによって、人々がそれらから離れて生きたいという思いを強めるためであったのでしょう。同時に、主とともに生きることによって、どのような生活を神は私たちに約束してくださったのか、その祝福を見ることによって「そうだ！これが私の欲しいものであり、このように私は変えられて行きたい！」という思いをより強くするためです。そのために、パウロはここでこの二つの生き方を比べています。

**A. 肉がもたらす生き方 19－21節**

まず、19節には「肉の行いは明白であって、次のようなものです。不品行、汚れ、好色、」とあります。この「肉の行い」とは「罪の性質がもたらす行動」のことです。それが「明白である」と書かれています。つまり、はっきりと形となって示されたということです。罪によって生み出される生き方、それがどのようなものか？明確にリストとしてパウロはここに挙げています。まさに、このような生き方、こういう人たちが罪の性質によって支配されている者たちです。15個書かれています。今から、古い性質に支配された人はどのような生き方をするのか？それを見ていきます。

ただ覚えておきたいことは、ここに記されていることはかつての私たちだということです。救われる前の私たちの姿がここに書かれています。神に背を向けて生きていたあなたの姿です。神が忌み嫌うことを喜び愛して来たあなたの姿がここに書かれています。そして、このような生き方へと救いに与ったあなたを引っ張っていこうとする古い性質があなたの中には存在しているということです。

15個のことを見ていきますが、これらは四つに分けることができます。

**1. 性的罪 19節**

19節に「不品行、汚れ、好色、」と三つのことばが書かれています。

1) **不品行**：これは性的な不道德であり、特に、夫婦間以外のセックスのことです。神の前では同性愛も不倫も罪です。この世が「それらは今の流行だ」と言ってもこれは罪です。神が忌み嫌われることです。実は、この当時、このような生き方はその社会では普通のことでしたが、敢えて、このことを強調しなければなりません。そして、どの時代でも同じです。2000年前にこのように不品行が罪だと言っていますが、今も同じでしょう？フリーセックスの時代だから好きならいいではないかと…。神は罪だと言われます。

2) **汚れ**：ここに書かれているのは「行いにおける汚れ」です。今見た「不品行」は確かに「行い」です。そのような行動面、もちろん、ことばもそうですが、そういう行いの面ではなく、私たちの考えや思いという内面的な部分です。よくご存じのように、このような行いは私たちの内側から出て来るものです。イエスが「だれでも情欲をいだいて女を見る者は、すでに心の中で姦淫を犯したのです。」(マタイ5：28)と言われたとおりです。ですから、確かに、「姦淫」という行為は不品行であり罪です。しかし、そのような汚れた思いを抱くことも同様に罪だということです。

3) **好色**：これは「自制心に欠けた人」で罪の性質がもたらす欲求に対して自由奔放に生きている人のことです。つまり、罪の欲の欲するままに生きている、やりたいことをやっている人です。バークレーはこのことばについてこんな説明をしています。「他人が何を言おうと何を考えようと気にかけないほどの、自制心を失った欲望や願望を強引に満たそうとする人のことである。」と。人が何を思おうと関

係ない、私がやりたいことをやる、私の欲望を満たしたいのだと、まさに、このような人のことがここに記されているのです。

先にも言ったように、このような人たちはどこの国にもどの時代にも溢れていることを私たちは知っています。このような「性的な罪」について話した後、次に、

## 2. 偶像崇拝の罪 20節

20節に「偶像礼拝、魔術、…」と偶像崇拝に関してこの二つが記されています。

4) 偶像礼拝 : 説明の必要はないでしょうが、これは「真の神以上に愛するもの、真の神よりも大切にしているもの」です。イエスに仕えることよりもこれらのことに時間を割くなら、もしかするとそれが偶像になってしまう可能性があるのです。「私にとって一番大切なもの」です。初めはそうでなくても、いつの間にかそれが神よりも大切なものになってしまうのです。こうして確かめればいいのです。あなたが一番愛しているもの、それを喜んで神の前に捨てることができるかどうか？です。もし、答えがすぐに出て来なければ注意しなければならないかもしれません。

5) 魔術 : 大変面白いことばが使われています。「魔術」と訳されていることばはギリシャ語では「ファーマケイア」です。このことばから英語の「ファーマシー」ということばが派生したのです。これは薬局、薬の調剤などを表します。では、なぜ、薬と魔術が関連しているのか？不思議です。実は、この当時、その悪の力を信じている者たち、悪霊、サタンを崇拝すると言いますが、そのような悪魔礼拝をする人たちの中に、人々をトランス状態に、つまり、催眠状態などの場合に見られる常態とは異なる精神状態のことですが、そのような状態にもっていくために使われたものが薬だったのです。ですから、薬と訳せることばがここで「魔術」と言っているのです。

実は、初代教会でも魔術師が薬を用いて悪の結果をもたらしていました。使徒の働き8:9に「ところが、この町にシモンという人がいた。彼は以前からこの町で魔術を行って、サマリヤの人々を驚かし、自分は偉大な者だと話していた。」とあります。いろいろな薬を使って様々な現象を起こして、あたかもそれが自分自身の力であるかのように示していたのです。ご存じのように、主イエスはこの魔術を忌み嫌っておられます。申命記にこのような記事があります。18:10-12「:10 あなたのうちに自分の息子、娘に火の中を通らせる者があってはならない。占いをする者、卜者、まじない師、呪術者、:11 呪文を唱える者、霊媒をする者、口寄せ、死人に伺いを立てる者があってはならない。:12 これらのことを行う者はみな、【主】が忌みきらわれるからである。これらの忌みきらうべきことのために、あなたの神、【主】は、あなたの前から、彼らを追い払われる。」、私たちの周りにこのような人はたくさんいます。どこにいても運勢を見るなどは茶飯事です。なぜ、人々はそのようなものに関心をもつのでしょうか？それは私たちの将来が分からないからです。今日の運勢を見たいのは、今日何が起こるか不安だからでしょう？私たちクリスチャンはそれらのことから全く解放されてそれらは不必要です。全能の神が私たちをしっかりと守ってくださっているからです。その方の御手に私たちは守られて生きています。

でも、主のことを信じる前は、私たちはいろいろな不安を抱えていてこのようなことに心を奪われていたかもしれません。みことばが言うように、このような魔術、それを神は喜ばれません。

## 3. 争い 20-21節

次に見るグループは「争い」です。八つあります。最初の四つは「個人と個人の関係」に関するこのようです。

6) 敵意 : 人に対する嫌悪感です。だれかのことが「嫌い」ということ。皆さんもよくお分かりだと思いますが、だれかが嫌いならそこには必ず争いが出て来ます。次に出て来ることが「争い」です。

7) 争い : だれかを嫌っているならそこには「争い」という結果が訪れるということです。嫌いな人を攻撃するのです。実は、コリント教会の中に争いがあったとパウロが記しています。Iコリント1:11です。「実はあなたがたのことをクロエの家の者から知らされました。兄弟たち。あなたがたの間には争いがあるようで、」と。では、どんなことで争っていたのか？続く12節「あなたがたはめいめいに、「私はパウロにつく」「私はアポロに」「私はケパに」「私はキリストにつく」と言っているということです。」と。

教会の中に偏愛があったのです。「私はこの人が好き」、「いや、私はあの方が好きだ」と。そのような思いをもっているから、そうでない人のことが好きではないのです。そうすると、教会の中にいろいろな争いが起こって来ます。それがコリント教会の状態だったのです

なぜ、こんなことが起こっていたのか？問題の原因はその人自身にあります。パウロがこのように言っています。Iコリント3:3「あなたがたは、まだ肉に属しているからです。あなたがたの間にねたみや争いがあることからすれば、あなたがたは肉に属しているではありませんか。そして、ただの人のように歩んでいるではありませんか。」、彼らはまだクリスチャンとして幼すぎると言います。みことばが私たちに教えることは「お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。」(エペソ4:32)です。コロサイ3:13にも「互いに忍び合い、だれかがほ

かの人に不満を抱くことがあっても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。」とあるとおりです。

兄弟姉妹が争っている、この人が好き、あの人が嫌いなどというくだらないレベルにいる。余りにも幼稚すぎるのです。私たちは無条件で愛してくださった神を受け入れたのです。そして、その神の愛をもって他の人を愛することができるようになったのです。私たちが覚えることは、私たちが証している神はどのようなお方かということです。もちろん、ことばでも伝えますが、私たちの生き方をもって神は無条件の愛で愛する方ですと証します。主の前に赦しを求めるなら赦してくださるお方です。でも、そうではなく、私たちが人を嫌っていたり赦すことができなかつたりしているなら、私たちはどのようにして神のみこころを實踐できるでしょう？もっと考えなければいけないことは、私たちが示している主は聖書が示している主と同じではないということです。

**8) そねみ** : 「敵意」「争い」の次に「そねみ」ということばが出ています。英語では「ジェラシー」と書かれています。ねたみ、嫉妬です。実は、この後に「ねたみ」が出て来ますが、違うことばが使われています。ここにある「そねみ」は他の人が持っているものを自分のものにしたいという願望です。人が持っているものを欲しがることです。これが「そねみ」ということばがもっている意味です。

**9) 憤り** : ずっと怒りをもっているのではなく、突然に、爆発するような怒りのことです。カッと怒るのです。そのカッと怒ることをコントロールできない状態のことです。  
⇒これら四つのことは個人と個人の間のことです。後半の四つは、個人とグループ、また、グループとグループとの関係と見えます。

**10) 党派心** : このことばは新約聖書に7回出て来ますが、このことばのギリシャ語は3通りに訳されています。

(1) 党派心=7回のうちの4回はここにあるように「党派心」と訳されています。今見ているガラテヤ5:20、ローマ2:8「党派心を持ち、真理に従わないで不義に従う者には、怒りと憤りを下されるのです。」、Ⅱコリント12:20「私の恐れていることがあります。私が行ってみると、あなたがたは私の期待しているような者でなく、私もあなたがたの期待しているような者でないことになるのではないのでしょうか。また、争い、ねたみ、憤り、党派心、そしり、陰口、高ぶり、騒動があるのではないのでしょうか。」、ピリピ1:17「他の人たちは純真な動機からではなく、党派心をもって、キリストを宣べ伝えており、投獄されている私をさらに苦しめるつもりなのです。」、

(2) 自己中心=これは一箇所にだけ出て来ます。ピリピ2:3「何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。」、

(3) 敵対心=ヤコブ3:14と3:16に出て来ます。「:14しかし、もしあなたがたの心の中に、苦いねたみと敵対心があるならば、誇ってはいけません。真理に逆らって偽ることになります。」、「:16ねたみや敵対心のあるところには、秩序の乱れや、あらゆる邪悪な行いがあるからです。」

そうすると、「党派心とは何か？」という、これは「利己的な野心、野望」のことです。「私の願いを何とか成就させたい、私の夢を叶えたい」と、人のことなど眼中になく自分の願望を満たしたいとすることです。まさに、これは競争から来るのかもしれませんが。あの人に勝ちたいと。

思い出しませんか？パウロがローマで投獄されているときにピリピに宛てて手紙を書きましたが、その中でこんなところにこのことばが使われています。ピリピ1:16、17「:16一方の人たちは愛をもってキリストを伝え、私が福音を弁証するために立てられていることを認めています。、:17他の人たちは純真な動機からではなく、党派心をもって、キリストを宣べ伝えており、投獄されている私をさらに苦しめるつもりなのです。」、ですから、パウロたちは神のために喜んでやっていた、でも、ある人たちはパウロと競争しながら、動機が正しくなかったのです。「純真な動機からではなく、党派心をもって、」と書かれています。考えていたのは自分のことです。もしかすると、パウロよりも自分の方が名誉ある者に、尊敬を受ける者になりたいと思っていたかもしれません。いずれにせよ、不純な動機によって働きをしていると言っています。

**11) 分裂** : 利己的で自分の野心を実現することを考えている人たちが集まっているなら、そこには結果的に一致など生まれません。みな自分のことしか考えていないからです。間違いなく「分裂」が生じます。

**12) 分派** : 次に出て来るのは「分派」です。自分の野望を満たしたい、達成したいと思っている人は、結局、最終的にあなたはどちらに付くの？私に？それとも別の人に？となって、そこには分派が生じて来ると言うのです。Ⅰコリント11:19にはこのように書かれています。「というのは、あなたがたの中でほんとうの信者が明らかにされるためには、分派が起こるのもやむをえないからです。」、

**13) ねたみ** : 先に「そねみ」は「他の人の持つものを欲しいと思うこと」と言いました。よく似ていますが、この「ねたみ」はただ欲しいと思うだけでなく、その人が持っていること自体に腹を立てているのです。「なぜ、あの人を持っているの？私は持っていないのに…」という怒り、不満です。

#### 4. 酒に関して 21節

二つのことが挙げられています。

**酩酊**： 酔うことです。ルカ21：34では「深酒」と訳しています。「あなたがたの心が、放蕩や深酒やこの世の煩いのために沈み込んでいるところに、その日がわなのように、突然あなたがたに臨むことのないように、よく気をつけていなさい。」と。

**遊興**： 飲み騒いでいる様子です。パークレーは「自制心のない慎みを失った騒々しい宴会や乱交にまで退化した享楽を意味する。」と言います。結局、楽しければそれでいいというわけです。好きなことをやっている、まさに、その姿です。

こうして15のリストを今見て来ました。注意して見てください。確かに、これらは救われていない人が持っているものです。なぜなら、21節を見てください。「ねたみ、酩酊、遊興、そういった類のもので。」とあってその後に「前にもあらかじめ言ったように、私は今もあなたがたにあらかじめ言うておきます。こんなことをしている者たちが神の国を相続することはありません。」と書かれているからです。でも、これらのことをクリスチャンである私たちも行うことがあります。そうすると、残念ながら、私たちは救いに与っているけれど、この地上での歩みを見たときに、私たちが喜ばないこと、神の前に正しくないことを考えたり、口から出したりしませんか？本当の私たちの姿は人から見えないところにいる姿です。人前にいる姿は偽善です。みな化粧して来るのです。だれもいないとき、だれも見えていないときの一人の姿が本当の自分です。

今、この15のリストを見て、確かに、私たちはかつてその中で生きていたのです。そして、神はそこから私たちを救い出してくださったのです。しかし、救われていながら私たちの中にはまだそのようなものに負ける部分が多くあるのです。ですから、21節で「こんなことをしている者たちが神の国を相続することはありません。」と言ったときに、では、こういうことをしているなら私たちは救いを失ってしまって永遠の滅びに至るのか？となりますか？聖書はそのように教えていません。なぜなら、この「している」という動詞は現在形ですから「継続して、習慣的に、いつも行っている」ということです。そして、もっと言うなら、この人の中には「神さま、ごめんなさい！」という思いがないということです。

救われる前のご自分のことを思い出してください。ある罪に関しては良心の呵責を覚えたかもしれませんが、でも、神への謝罪にまではいかなかった。創造主なる唯一真の私たちの神の前に「神さま、私は罪を犯しました。どうぞ、赦してください。」と、そのような思いはなかったのです。ここで言われていることは、「こんなことをしている者たちが」とはこのような15の罪を習慣的に日常的に、そして、罪の責めもなく行っている人のことです。その人は永遠の滅びに至るということです。

最初にも見たように、私たちは罪が赦され罪から完全に解放されている、けれども罪との葛藤があります。そのことは何度も学んで来ました。私たちはその中で生きています。パウロは、悲しいけれど、私たちはすでに解放されたにも拘わらず、これらに捕らわれてしまうことがあると言います。

そのとき、どうすればいいのか？神の前に出て行くことです。神の前にその罪を告白することです。そうして、私たちはその罪から脱出するのです。パウロはこう言っています。Iコリント6：9-11「9 あなたがたは、正しくない者は神の国を相続できないことを、知らないのですか。だまされてはいけません。不品行な者、偶像を礼拝する者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、10 盗む者、貪欲な者、酒に酔う者、そしる者、略奪する者はみな、神の国を相続することができません。11 あなたがたの中のある人たちは以前はそのような者でした。しかし、主イエス・キリストの御名と私たちの神の御霊によって、あなたがたは洗われ、聖なる者とされ、義と認められたのです。」、ローマ13：13「遊興、酩酊、淫乱、好色、争い、ねたみの生活ではなく、昼間らしい、正しい生き方をしようではありませんか。」と。もし、救われた私たちが罪と全く無縁であるなら、パウロがこのように言うはずはありません。パウロがこのような罪の生活ではなく「昼間らしい、正しい生き方をしよう」と言ったのは、生まれ変わった者として、光の子として、昼間の者として、罪赦された者として生きているけれど、まだ、罪との葛藤があり、罪に対しての敗北があるからです。だから、パウロは「正しい生き方をしよう」と、クリスチャンたちがかつての生き方から離れて正しい生き方をしようと奨励をするのです。

同じように、ペテロもIペテロ4：3で「あなたがたは、異邦人たちがしたいと思っていることを行い、好色、情欲、醉酒、遊興、宴会騒ぎ、忌むべき偶像礼拝などにふけたものですが、それは過ぎ去った時で、もう十分です。」と言っています。今までの生き方から救い出されたのだから、神が喜ばれる正しい生き方をしていましようと言うのです。ですから、救いに与っていながら、私たちはまだまだこのような罪に敗北を喫することが多々あるのです。だから、私たちは見て来たように、また、教えられて来たように、この罪が私を支配する前にストップをかけるのです。どのような悪い思いであっても、それがどれ程小さい段階でも、それを許してはいけません。神があなたの心を支配し続けるように求めなさいと言うのです。さて、今見て来た15のリストは「肉がもたらすもの、古い性質がもたらすもの」です。

## B. 新しい生き方がもたらす生き方とその特徴 22-23節

これから見ていく九つのリストは「聖霊がもたらすもの」です。22節には「しかし、御霊の実は、」とあります。この「実」という名詞は単数です。九つの実ではなく「一つの実」です。もうすでに学んだことですから皆さんはよくお分かりだと思います。ですから、これは九つの異なった実ではありませんから、「私はこれが欲しい、これをもう少し欲しい」ということではないのです。一つになって与えられるものです。そして、イエス・キリストを信じたときにあなたにはこの実は与えられているのです。もしかすると、自分を見て、いったいその実はどこにあるのだろうと、そのように思うかもしれませんが、みことばによればそれはもう与えられているのです。神が望んでおられることは、あなたがその実において成長することです。さて、どのようなものか？順に見ていきましょう。

1) **愛** : ここに記されているのは、主イエス・キリストの愛を実践するということです。イエスがあなたに示してくださった愛、それを実践するのです。ヨハネはこう言っています。Iヨハネ4:7-11「:7 愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。:8 愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。:9 神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。:10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。:11 愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。」、みことばがこうして教えてくれるように、私たちが神から求められているのは、このイエス・キリストの愛、私たちがいただいた主の愛をもって人を愛することです。神を愛し人を愛することです。大変難しいことです。でも、何度も学んでいるように、これは実践できることです。あなたの意志によって実践できるのでしょうか？できません。あなたがどんなに心を強くしてもできません。神の助けによって可能なのです。

では、ここで言われていること、人に対する「愛」、こうすればいいのです。人があなたに何をしようと、何を言おうと、あなたは常にその人に主の祝福があるようにと求めるのです。そして、その人に対して最善を為すのです。これは神のあなたに対する愛でしょう。私たちは神の祝福を受ける資格の全くない者でしたが、神は私たちに祝福をくださったからです。救いという祝福です。日々、この地上にいても神とともに生きることが出来る祝福です。そして、その後も神とともにいる祝福です。そして、神はいつも最善を為してください。だから、私たちもそれに倣ってそのように歩いていくのです。

2) **喜び** : 事の事態や状況に左右されない喜びのことです。何があろうといつも喜んでいるのです。パウロはこう言います。IIコリント6:10「悲しんでいるようでも、いつも喜んでおり、貧しいようでも、多くの人を富ませ、何も持たないようでも、すべてのものを持っています。」、よくご存じのみことばかもしれませんが、考えてみてください。涙を流すことがあっても辛いことがあっても、その中で神の喜びが自分の心を支配しているのです。そのような生活を神は約束してくださったのです。

3) **平安** : 同じように、事の事態や状況に左右されない心の平安です。どんなときでも平安をもって歩むことが出来るのです。喜ばない状況でも心が騒ぐ状態でも平安をもって歩むことができると言います。思い出しませんか？イエスがこの後十字架に架かるということを聞いたとき、弟子たちは大変驚き心を騒がせました。不安になったのです。そのような弟子たちに対してイエスはこう言われました。ヨハネ14:1「あなたがたは心を騒がしてはなりません。」と。不安に駆られていた彼らに対してこう言われたのです。その後このように言われました。「神を信じ、またわたしを信じなさい。」と。

つまり、心を騒がせながら生きることもできるし、神の約束された平安をもって生きることもできるのです。どちらを選ぶか？です。もし、あなたが神の平安をもって生きようとするなら、イエスが言われたように、神を信じるかどうか？です。どういうことか？私たちの日々の生活にはいろいろなことがたくさん起こります。その中で私たちが平安を持つことが出来るかどうかは、あなたがその中において神を信じるかどうかを問われているのです。

というのは、神は私たちに約束をくださいました。「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」(ローマ8:28)とあるとおりです。皆さんはこのことばを覚えているし好きなみことばの一つかもしれませんが、では、なぜ、そのように生きないのか？です。「神はすべてのことを働かせて益とする」ということはすべてのことはあなたにとって「益」だと言ったのです。もちろん、それを通して神の栄光を現されるし、しかも、あなたの信仰が成長する機会なのです。気付かれますか？私たちは頭では知っています。聞いたことがあるのです。でも、実生活に生きていないから、私たちは何の力も経験していないのです。そのような信仰生活を生きていませんか？知ってはいるけれどそれが何の力にもなっていないのです。

ここでイエスが言われたことは「あなたはわたしの言うことを信じるか？」です。いろいろなことがあっても「すべてのことを働かせて益とする」とみことばが教えている以上、神はそれを通してご自身

の栄光を現される。しかも、これは私にとって益だと言う。それを信じるならどのような中であっても私たちは神の平安をもって生き続けることができということです。何が「カギ」が分かりましたか？なぜ、あなたの心がいつも騒いでいるのか？いつも不安でいっぱいなのか？神のことばは知っているけれどそれを信じていないからです。信じない人のうちに神はどのようにして働きますか？

イエスが言われたことは「わたしのことばを信じなさい。」です。「あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。」、これが「カギ」です。あなたがたがそうするまではこの約束はあなたのものにならないのです。悲しいことです。私たち救われた者に神はすばらしい祝福を約束してください。世が与えるものとは違う神の平安をいただいた。でも、多くのクリスチャンたちがその平安をもって生きていないのです。もしかすると、私たちはそれをだれかのせいになっているかもしれません。神のせいになっているかもしれません。「神さま、えこひいきです。不公平です。あの人がもっている平安をもっていないから…」と。みことばが教えるのは「原因はあなたにある」です。「あなたがわたしを信じないからだ」と。

4) 寛容 : 四つ目は「寛容」です。これは「忍耐、我慢強さ」ということです。イエスを思い出してください。人の悪に対して悪で報いたことなどありません。人々がどんなにイエスに悪を為してもイエスはそれを主にゆだねて耐えられたのです。私たちにも同じことが言われているのです。悲しいことは多くあります。でも、私たちはすべてを主にゆだねて生きることができます。なぜなら、最後には主のみこころが成されるからです。感謝なことは、だれも理解してくれなくても神は理解してくれています。神を信頼して神に従い続けて行くことです。

5) 親切 : これは「隣人に対する優しい心遣い、思いやり」です。Ⅱテモテ2:24-25に「:24 主のしもべが争ってはいけません。むしろ、すべての人に優しくし、よく教え、よく忍び、:25 反対する人たちを柔和な心で訓戒しなさい。もしかすると、神は彼らに悔い改めの心を与えて真理を悟らせてくださるでしょう。」とあるとおりです。そして、これが形となって現れるのが次の「善意」です。

6) 善意 : 「親切」と「善意」、この二つは大変関連したものです。人に対して優しい心遣いがあっても、それを行動に示さなければ虚しいことです。ですから、この「善意」はその心遣いの実践なのです。自分に対して主が為してくださいましたことを人に対しても行っていくのです。

7) 誠実 : これは「信頼に値する」という意味です。私たちは主が信頼に値するお方であることを信じています。主が約束されたことは必ずそうなります。世の中がすべて否定しても神が言われたことは絶対そうなるのです。神が言われたからです。だから、神は信頼に値するお方です。

私たちは成長することによって信頼される人に変えられて行きます。なぜなら、主が信頼されるお方だったから、私たちはそのように変えられて行くのです。

8) 柔和 : このことばは新約聖書に11回出て来ます。このことばも三通りに訳されています。

・「柔和」＝「柔和」と訳されているのが新約聖書に8回あります。

Ⅱコリント10:1「さて、私パウロは、キリストの柔和と寛容をもって、」

ガラテヤ5:23(「:22 しかし、御霊の実は、)「柔和、自制です。」

ガラテヤ6:1「…御霊の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正してあげなさい」

エペソ4:2「謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、」

コロサイ3:12「神に選ばれた者、…として、あなたがたは深い…柔和、寛容を身に着けなさい。」

Ⅱテモテ2:25「反対する人たちを柔和な心で訓戒しなさい。」

テトス3:2「また、だれをもそしらず、争わず、柔和で、すべての人に優しい態度を示す者と…」

ヤコブ3:13「あなたがたのうちで、知恵のある、賢い人はだれでしょうか。その人は、その知恵にふさわしい柔和な行いを、良い生き方によって示しなさい。」

・「すなお」＝これは一箇所、ヤコブ1:21です。「ですから、すべての汚れやあふれる悪を捨て去り、心に植えつけられたみことばを、すなおに受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。」

・「優しい」＝後の2箇所は「優しい」と訳されています。

Ⅰコリント4:21「あなたがたはどちらを望むのですか。私はあなたがたのところへむちを持って行きましょうか。それとも、愛と優しい心で行きましようか。」

Ⅰペテロ3:16「ただし、優しく、慎み恐れて、また、正しい良心をもって弁明しなさい。そうすれば、キリストにあるあなたがたの正しい生き方をのしる人たちが、あなたがたをそしったことで恥じ入るでしょう。」

「柔和」な人とはまず「神に対して柔和な人」です。自分のことを本当に知っているゆえに、神の前に自らを謙虚にしている、自分のことを自慢しないのです。肉にある人は自分を人々の面前に押し出して人々から認められたい、誉められたいと働きます。でも、柔和な人は自分よりも人が認められることを



喜びとするのです。そして、人の悪に対しても悪をもって応じないのです。

先ほど見て来た人たちはこれとは全く逆です。争っている人たち、彼らの問題はいつも自分が中心だったことです。利己的でした。柔和な人はこれとは全く逆で、本当の自分を知っているゆえに、何があっても、その中で「これは私の権利です！」などと言って争うことをしていません。ここに見るのは、謙虚で砕かれた人です。そのような人を神はお使いになる。

**9) 自制** : 最後にあるのは「自制」です。イエスを見たときに、イエスはすべての点で父なる神のみこころに従われた。みこころに反すること、みこころから外れることを決して行わないように自制心を働かされました。私たちも同じように、神のみこころに反することや神が悲しまれることを自分でしっかりとコントロールしていく、それがこの「自制」です。何が神の前に正しいのかそうでないのかを見極めるのです。そして、神に喜ばれないことから外れて行こうとします。

こうして九つの「実」を見て来ました。どんな人がここに描かれているか？この人は神の愛をいただいた人であり、その愛をもって神を人を愛している人であり、ゆえに、この人の中には何があっても喜びが溢れていて、この人の中にはいつも平安がある。そして、何があっても、何をされても何を言われても神にすべてをゆだねて忍耐をもって神に従い続けている人であって、人に対して思いやりの心を持つだけでなく、それを実際に行動に表している人です。そして、その人は信頼される人で、人がたとえどのような悪を行ったとしても、砕かれた謙虚な態度で、その態度や行動において優しい人であり、そして、自分をコントロールしながら神が喜ばれることを選択していきます。

このすべてにおいて完璧であったのがイエスであり、もう一つ言うなら、神はこんな人にあなたを変えようとしてくださっているのです。なぜなら、私たちはイエスに似たものへと変えられて行くからです。ですから、最後にこうあります。「このようなものを禁ずる律法はありません。」と。このように変えられて行くこと、こういう人になること、まさに、それこそ神のみこころであるからです。ですから、それを禁ずるような神の教えなどどこにもありません。神の望んでおられる信仰者の姿です。

皆さん、この働きはもうあなたのうちに始まったのです。でも、こういう人に私たちが変えられて行くためには、最初に見たこと、パウロがこの箇所を通して繰り返し教えていることを思い出してください。それは、どんな罪も赦してはいけないということです。あなたの心が罪に汚染されたときに、その罪があなたの心を支配しようと働き掛けるときに、それを放って置いたら、必ず、私たちは神が喜ばれないことを選択することになります。神が私たちのうちに自由に働いていただくためには、まず、私たちはその妨げとなる罪を除いていかなければなりません。どんな罪でも、どんなに小さな罪でも、それが入り込んで来たなら、すぐそこでストップをかけて「神さま、どうぞ、あなたのあわれみによって私を支配してください。私の考えることと思うこと、ことばも行動もすべてあなたが支配してください。なぜなら、あなたの栄光を現したいからです。ですから、どうぞ、私のすべてを支配してください。」と、そのように歩み続けて行くなら、神はあなたを変え続けてくださる。あなたをイエスに似た者へと変え続けてくださる。

そのように生きなさいと。かつて、私たちが奴隷として仕えて来たその罪がもたらした生活を、どれ一つ見てもこの15個は神の栄光を現すものではありません。神の栄光を汚すものであり、神を悲しませるものです。それが今も私たちの心に働いてかつての生き方に私たちを引っ張っていかようとするのです。許してはいけません。でも、神が私たちが支配するときに、この九つの美德、こういうものに私たちは支配され、こういう人へと神は私たちを変えて行ってくださるのです。

あたかも、神があなたに問い掛けておられるようです。「あなたはどちらを選びますか？」と。神はあなたを助けてくださる。あなたを支配してあなたを変え続けてくださる。でも、そのためにはそのことを私たちが望まなければなりません。あなたは本当に主が喜ばれ神の栄光を現すような信仰者に、イエスに似たような信仰者に変えていただきたいと願いながら今生きているかどうかです。もし、そうでないなら私たちは悔い改めなければいけません。私たちはこの神の栄光を現すために造り変えられたからです。正しい選択をもって、みことばが教えているその教えに従うことによって、この与えられた一日を主の栄光を現す働きのためにしっかりと生きていきましょう。正しい選択をもって主の栄光を現していきましょう。

#### 《考えましょう》

1. 「古い性質」と「新しい性質」について説明してください。
2. 「古い性質」に支配されないためにはどうすればいいのでしょうか？
3. 「新しい性質」に支配され続けるためにはどうすればいいのでしょうか？
4. 今日の学びであなたが教えられたことは何ですか？それを信仰の友たちと分かち合ってください。